

下學集上

カモイ
形 鷗 日本所謂

藻鹽草鳥

十

鷗

かもめなるふぢゑのうらや かまめの事也

鷗うかぶ おきの鷗 鷗なく

鷗むれにて

和爾雅禽鳥

六

鷗水

鷗、鷺

並同

江鷗

海鷗

物類稱呼二物

鷗かもめ

中國にうはみと稱す、肥前にてねこどり又大雁といふ、沖にすむ鷗は

土佐國にてかごめ共いふ、上總及武の品川にてうみねこ、本牧にて濱ねことも呼ぶ、近江にて苗代鳥、又ねこさぎといふ。

鷗の鳴く聲猫のなく似たり故に異名とす、萬葉集に加萬目、又鴨妻と書り、鴨妻とは鴨のごとくにして、小しきなるをいひしなるべし、一説に、沖にあるをかもめ、磯に集をいそちどり、河に詠合するを都鳥といふと、直龍翁の説なり、未詳。

東雅禽鳥

十七

鷗カモメ

萬葉集には加萬目とあるして、カマメと讀み、また鴨妻とあるして、カモメと讀みけり、カマメといひ、カモメといふ、只其語の轉せしにて、異なる物とは見えず、カモメといふ義の如きは不詳、カモメとは、即鴨妻の義にて、鴨の如く

庵厨備用倭名本草水禽

十九

元升井向

曰、余長崎海邊ニテ海鷗ハ常ニ目ナレヌ、其形狀ハカモニ似テ、毛ナミフクヤギ、色白クシテ雪ノ如シ、カモヨリホソク頸長カラズ喙ト脚トモ長カラズ

シテ色赤シ、常ニ海上ニアリテ浪ト浮遊ス、時ニ洲渚島嶼ニ休ス飛コト急々ナラズ、其性靜也、或人曰、江州湖水邊ニ鷗アリ、常ニ田澤中ニアリ、其色蒼黒ニシテ脚アカシ、海鷗湖鷗ノカハリナルニヤ、

本朝食鑑五禽

鷗

鷗和

名訓

二

集解、鷗者輕漾如漁海者曰海鷗、江者曰江鷗、湖河溪川亦居、然非不通江海處而居者少矣、頭背灰白、